

2020年度第3回町田市子ども・子育て会議

書面開催議事要旨

【開催概要】

日 時：2021年2月18日（木）

開 催：書面での開催

【議事次第】

1 議 題

- (1) 「町田市子ども発達支援計画（2021～2023）行動計画（案）」の意見募集の実施結果について
- (2) 「町田市子ども発達支援計画（2021～2023）行動計画（案）」の最終確認・承認について

2 報 告

- (1) 2021年4月 認可保育所等への入所申込み等の状況（1次選考）について
- (2) 2021年度学童保育クラブ一斉入会申請等の状況について
- (3) 2021年度 放課後子ども教室「まちとも」の実施について
- (4) ユニセフ子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）の取組状況について
- (5) 相模原市との病児保育事業に係る広域利用協定締結について
- (6) 障がい者差別の相談窓口案内チラシについて
- (7) 「保育料及び育成料のあり方検討」について
- (8) 2021年度町田市子ども・子育て会議年間スケジュール

3 おわりに

【配布資料】

- 資料 1 ご意見の概要と市の考え方
- 資料 2 町田市子ども発達支援計画行動計画（2021～2023）主な変更
点一覧
- 資料 3 町田市子ども発達支援計画行動計画（案）
- 資料 4 2021年4月 認可保育所等への入所申込み等の状況（1次選考）
について
- 資料 5 2021年度学童保育クラブ一斉入会申請等の状況について
- 資料 6 2021年度 放課後子ども教室「まちとも」の実施について
- 資料 7-1 ユニセフ子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）の取組状況に
ついて
- 資料 7-2 チラシ【ユニセフ「日本型CF Cモデル検証作業」完了報告及び今後
の展望】
- 資料 8 相模原市との病児保育事業に係る広域利用協定締結について
- 資料 9 チラシ【事業者や行政機関から障がい者差別を受けた場合の相談を受
け付けています】
- 資料 10 「保育料及び育成料のあり方検討」について
- 資料 11 2021年度町田市子ども・子育て会議年間スケジュール

2020年度第3回町田市子ども・子育て会議 委員出席者

子ども・子育て会議 委員

氏名	所属	出欠
◎吉永 真理	昭和薬科大学	出
○鈴木 美枝子	玉川大学	出
小林 保子	鎌倉女子大学	出
駒津 彩果	東京三弁護士会多摩支部	欠
矢口 政仁	町田市私立幼稚園協会	出
関野 鎮雄	町田市法人立保育園協会	出
馬場 昭乃	町田市社会福祉協議会	出
鶴田 尚子	社会福祉法人 福音会	出
吉田 孔一	町田市立小学校校長会	出
高橋 博幸	町田市立中学校校長会	出
森山 知也	東京都立町田の丘学園	出
赤木 律子	町田市民生委員児童委員協議会	出
宇賀神 直子	町田市立中学校PTA連合会	出
風張 眞由美	町田市医師会	出
澤井 宏行	町田商工会議所	出
金井 玲奈	市民	出
岸 洋一郎	市民	出
高倉 麻依子	市民	出
福田 麗	町田市青少年委員の会	出
酒井 恵子	町田市障がい児・者を守る会すみれ会	出

◎会長 ○副会長

2020年度第3回町田市子ども・子育て会議 事務局出席者

氏 名	所 属
石坂 泰弘	子ども生活部部长
鈴木 亘	子ども生活部子ども総務課課長
早出 満明	子ども生活部児童青少年課課長
櫻井 敦	子ども生活部保育・幼稚園課課長
市川 裕之	子ども生活部子育て推進課課長
江藤 利克	子ども生活部子ども家庭支援センター長
石崎 進	子ども生活部子ども発達支援課課長
青木 範和	子ども生活部子ども発達支援課相談・療育担当課長
守屋 靖	子ども生活部大地沢青少年センター所長
中島 佳子	地域福祉部障がい福祉課課長
上田 直子	保健所保健予防課課長
小池 木綿子	学校教育部指導室長兼指導課課長

子ども総務課事務局：奥 雅文、吉田 織子

○第3回子ども・子育て会議は、緊急事態宣言の発出を受け、書面開催となりました。

そのため、各委員に資料を送付し、ご意見・質問事項を集約し、必要に応じて資料の修正を行うという形式になりました。

【議事内容】

1 議題

(1)「町田市子ども発達支援計画（2021～2023）行動計画（案）」の意見募集の実施結果について

吉永会長：関心の高い方々からの重要な意見として受け止めたいと思います。後半に要望と整理された中にも、個別的に対応の回答をした方が良いものが見受けられます。特に、長期的なケアやサポート体制、自立のための支援についてのご意見が多いので、今後の対応に関して、他部署を含め、さらなる取り組み可能性を検討できればと考えました。

小林委員：6名、19件の意見について、内容が要望等とのことで計画案に反映するものではないとのことは、了解いたしました。一方、貴重なご意見であることも事実かと思えます。関連部署は耳を傾けることは大事であると思えますし、実施結果を表記する際は、丁寧な表記をしていただけると良いかと思いました。

森山委員：その他のご意見で出されているように、もう少し具体性のある内容、市民がさらに興味・関心をもち、読みたくなる、確認したくなる内容を今後考えていくことも必要かと思えます。

鶴田委員：支援が充実していたり、実際には対応できていても余り知られていない、という事も多いのでしょうか。市民の方が余り把握できていないような質問が散見されていきました。課題解決の為の対応も充実されていると思うのですが、さらに分かりやすいPRや講演会、情報提供（コロナ禍はネット配信など）などが望まれる、ということでしょうか。

高倉委員：人数が6名というのは少なく感じました。募集期間を少し長くする、もしくは前回の会議で意見が出たようにネットからスムーズに回答できるようにするなど今後工夫が必要なのではと思いました。

酒井委員：具体的な計画案に対する意見が無かったのが、少々残念でした。市内小中学校に対して、もう少し直接的にアプローチをとってもよかったかもしれません。サポ

ートルーム利用や支援級在籍の児童生徒が増えていますが、親の会等に入っているとも限らないので、そういった保護者に対して、直接意見が伝えられる機会であることも知ってもらえたかも、と思いました。

岸委員：人数・件数が少なく、また結果として反映する内容が無いということは、有効な意見募集になっていません。募集方法、質問の方法など問題があり、原因分析とともに有効な回答がいただけるように、今後に向けてやり方の見直しが必要ではないでしょうか。また、直接関係するような施設などへ協力をいただき、有効な回答をいただけるような方々からヒアリングするなど、より良くするための意見をいただく取り組みを考えていただきたいです。

子ども発達支援課長：今回の意見募集は、一般的なパブリックコメントの手法に準じて行いました。分かりやすい表記にするとともに、参考とさせていただきます。

矢口委員：【番号1】「すべて民営化することか」との意見に、「民間活力を導入し」は返答になっていないのではないのでしょうか。また、民間活力の導入について、経緯が示されているものを教えてください。

子ども発達支援課長：「認可通園部門のすべての事業に民間活力を導入し」に変更します。なお、民間活力の導入については、町田市ホームページの「町田市5ヵ年計画17-21」P132に掲載しています。

鈴木副会長：【番号3・4】市の考え方についてですが、保育所・幼稚園や小学校でも、支援が必要な子どもへの対応等については工夫をしながら行っていると思いますので、今後、全体的な保幼小連携を強化し、連絡協議会にとどまらずに、保幼小の全教職員が、支援が必要な子どもへの対応を学び合える環境等、整備できたらよいのではと感じました。

子ども発達支援課長：引き続き、連携強化等に努めて参ります。

吉永会長：町田市の接続カリキュラムのサイトはわかりやすく、アプローチカリキュラムシートの具体例もあるので、参照いただくのはいかがでしょうか。

矢口委員：【番号3・4】意見の概要は「幼稚園や保育園が～支援すべきではないか」なので、今の取り組みを改善か強化して欲しいとの意見ではないのでしょうか。既に療育機関と関わっている幼児については市の返答の通りですが、それ以外の全ての幼児を一人ひとり丁寧に協議会で情報共有することは時間的に難しく出来ていません。その為、番号4を含めて「実施しています」と言い切る事は難しいのではない

でしょうか。

子ども発達支援課長：番号3につきましては、『「町田市立小学校・幼稚園・保育園・子ども発達センター・特別支援学校連絡協議会」にて情報共有をしておりますが、より一層努めて参ります。』に変更します。

番号4につきましては、「カリキュラムを事前に示すことはしていませんが、入学前に「町田市立小学校・幼稚園・保育園・子ども発達センター・特別支援学校連絡協議会」にて情報共有に努めております。ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。」に変更します。

福田委員：【番号4】小学校入学前に情報共有をしている、との市の考え方はわかりませんが、環境の変化は子どもにとっても親御さんにとっても不安なことが多いと思いますので、親御さんがどのような情報を必要としているか確認し、情報を提供、共有していくことが大切かと思います。

子ども発達支援課長：保護者の視点を意識して、情報共有に努めて参ります。

矢口委員：【番号6】「親が疾病や障害の場合」と限定されてしまうと、親子療育事業では難しいので、別の方法での支援(家庭支援やファミリーサポートなど)について記載するのはいかがでしょうか。役所のアウトリーチには限界がありますので、親子療育事業以外の(保育施設が実施している)支援事業がより知られるよう私どもも努力します。

子ども発達支援課長：「事業への参加が難しい場合は、個別の相談を受けております。」と文言の追加をいたします。

高倉委員：【番号9・10】番号9はのちのち工夫できると良いと私も感じましたし、番号10については私たち市民委員も頑張らなくてはいけないと思いました。(回答に市民委員もメンバーに入れている事を書いても良いかと思いました。)

酒井委員：【番号9・10】パブコメ募集時に、子ども子育て会議・計画案については、市の職員だけでなく小中学校の校長会やPTAからの代表など子どもに関わりのある委員が関わっている説明も必要ということでしょうか。

子ども発達支援課長：「市民の方に内容が伝わる記述に努めて参ります。」に変更します。

吉永会長：【番号9・10】について、確かに子ども子育て会議の存在や、市民の代表と子ども・子育て支援等の専門家と町田市が情報共有・連携していることもお伝えできたら良いですね。「子ども子育て会議で今後も活発に意見交換し、市民の方により伝

わる方法で記述していけるように努めて参ります。」などの表現も良いかもしれません。

岸委員：【9～その他】「その他」が重要に感じました。ご参考でなく、なぜそのように感じられたのか、それこそ議題として掲げ検討しなければならないのではないのでしょうか。取組の内容が良くても伝わらない、使われなければ意味がないです。具体的とは、机上ではなく肌触り感のある表現とはどういったものなのか、話し合い、ブラッシュアップしていくことが重要と思います。

子ども発達支援課長：伝わる計画になるよう努めて参ります。

吉永会長：すべてを一冊から伝えるのが難しいので、リンク先を参照したり、この会議体の議事録も公開されていることを重ねてお知らせして、市民のみなさまも一緒に情報の更新をしていけるとよいと思います。

(2)「町田市子ども発達支援計画（2021～2023）行動計画（案）」の最終確認・承認について

○資料2「町田市子ども発達支援計画行動計画（2021～2023）主な変更点一覧」について

高倉委員：【目次】「障害」の「害」についての追加もとても良いと思いましたが、もう少し「がい」などについて説明があると分かりやすいとは思いました。（スペースの都合で難しいと思いますが）、徳島県のHPの記載が分かりやすかったです。

子ども発達支援課長：「障害」の「害」についての説明につきましては、町田市では統一した説明でご案内をしております。ご紹介いただきました徳島県のホームページにつきましては、参考とさせていただきます。

小林委員：【P9】変更後の人数修正ですが、確か直近では、2019年度の数字（20,155人）が出ていたと思います。修正するのであれば、最新の数値に入れ替えたらいかがでしょうか。

子ども発達支援課長：全国における医療的ケア児数の最新年度を2019年度に更新しました。あわせて説明文中の年度等を修正しました。

鈴木副会長：【P35】取組名に「町田市立」を追加したとのことですが、ここでいう「幼稚園・保育園」は、私立も含むということであっていますでしょうか。

子ども発達支援課長：町田市立小学校という意味です。幼稚園・保育園は私立・法人立を

含みます。

小林委員：【P 4 2】変更後で2021年度の現状の数値が削除とのことでした。削除の理由がなんだったか失念しているのかもしれませんが、他の項目では現状が入れられているので、統一した方が良いかとは思いました。

子ども発達支援課長：計画の指標を「研修受講者数」から「研修受講者数の満足度」に変更いたしました。2019年度については、満足度を算出しておりませんので削除いたしました。

矢口委員：【P 6 0】私も知らない内容(医療的ケア児支援コーディネーターやペアレントメンターなど)が、用語解説で分かりやすくなりました。

高倉委員：【P 6 0】「ペアレントメンター」の取り組みは、とても良いと思いましたが、用語解説や索引に追加したのも良いと感じました。

吉永会長：実際に取り組んでいる方々にとっても、多くのひとに伝わっていくとやりがいにもつながると思います。

○資料3「町田市子ども発達支援計画行動計画(案)」について

馬場委員：計画の内容でなく実施に関する要望です。①町田市社会福祉協議会で2020年度の事業の進捗状況に関する評価を行ったところ、対面で行う事業はコロナの影響で未実施あるいは改善する点が多いという結果でした。例えば、P 4 8、P 5 0に掲げられた事業は十分な安全対策を施したうえで実施して欲しいです。また、実施困難な場合は計画達成にこだわらず柔軟な対応を望みます。②安全対策のアイデアは広く周知して欲しいです。

子ども発達支援課長：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の中止も含め柔軟に対応していきます。効果的な安全対策のアイデアがある際には、所管部署から関係機関へ情報共有して参ります。

吉永会長：感染症の問題はある程度長期化しますし、新たな感染症が発生する危険性も大きいです。よくいわれるような「with コロナ時代」の新しいあり方の模索が求められていると思います。馬場さんのご指摘のような具体的な内容は、今後に大いに参考になると思います。

岸委員：これに限らずですが、統計などの記載、例えば「増加傾向」について、理由や考察を記載することは出来ないでしょうか。だから何なのか、を市としてどうとらえ

ているのか、が記載されるとより理解が増すと思います。

子ども発達支援課長：参考とさせていただきます。

吉永会長：理由に関する考察はひとつではないかもしれないので、問題提起と位置付け、さらに情報を受け止めた市民も考えていければ良いかもしれませんね。

福田委員：様々な支援体制を充実させていくことが求められていると思います。そのための人材の確保、人材の育成に力を注いで頂き、目標達成を目指していただきたいと思います。

酒井委員：第1期の計画立ち上げ当時の頃と比べて、子ども発達センターや就学相談等を利用する子どもの増加や子どもを取り巻く環境が想像以上に変化していると感じています。今後も特別支援学校・支援学級に在籍、サポートルームを利用する児童生徒の数も増えていくと思うので、保護者への案内（チラシ3枚でもお便りとして配布）や計画策定後も保護者・支援者（学校・デイ事業者等々）からの意見を集め、次の計画に繋がられるようにして欲しいと思います。

吉永会長：紙で配布することが良いかどうかも含めて、周知や情報提供については、常に方法をアップデートできると良いと思います。

2 報告

(1) 2021年4月 認可保育所等への入所申込み等の状況（1次選考）について

矢口委員：2021年4月1次募集の申込人数が減少したことは、新型コロナウイルス感染症の影響による一時的なものか、待機児童がピークアウトしたのか、どちらと感じていますか。

保育・幼稚園課長：2021年4月の待機児童数は確定しておりません。申込人数の減少も含め、研究して参ります。

関野委員：国・都の施策への対応もあると思いますが、全体合算では見えてこず、地域ごとと園ごとの定員割れも気になります。また、市で入所対応している保育所だけでなく、幼稚園や認定こども園の応募状況などの情報も、各園の協力をもらいながら、集計すると、全体の動向がよりよくわかるのではないかと思います。

保育・幼稚園課長：いただいた意見につきましては、参考とさせていただきます。

吉永会長：他の自治体の例では、市民団体がこうした役割を担っていたりします。同じような悩みを抱える同士やその年代を通り過ぎた経験者などがネットワークできると

良いと思います。

(2) 2021年度学童保育クラブ一斉入会申請等の状況について

小林委員：「3. 高学年児童の入会選考について」の、「保育の必要性を判断する適正な基準」の内容はどのようなものか参考までに説明いただけたいと思いました。

児童青少年課長：保護者が就労等の理由で学童保育クラブを利用する世帯では、保育園を利用していただいていることが多いことから、学童保育クラブの選考基準は保育園の入所選考基準をもとに策定いたしました。主な選考基準は、「就労」「疾病」「介護」などの事由や、それにかかる「日数」や「時間」等に加え、「ひとり親」など家庭の状況を考慮しながら、必要度について優先順位を付けています。

赤木委員：学童保育クラブの高学年児童の入会申請により、施設の広さが逼迫しているのではないかと思います。コロナ禍の現状もあり、過密を防ぐ対策などは各学童で対処されていると思いますが、施設の拡充や整備（トイレなどの増設）や教材の補充など、具体的な対策を考えられているのでしょうか。

児童青少年課長：高学年児童を受入れるにあたり、中央学童保育クラブで増築棟の建築を、南第一さくら学童保育クラブで育成スペースの拡張工事を行いました。来年度は、大蔵学童保育クラブで老朽化改修とともに、トイレの男女別化工事も予定しています。さらに、学校施設を一時利用するなどの対応を取り、適切な育成環境を確保しております。また、高学年児童用の遊具や図書等もそろえて参ります。

吉永会長：施設周辺の屋外空間の活用も視野に入れられると良いのではないのでしょうか。

矢口委員：各学年の学童申込人数を記載する場合、各学年の在籍している人数が解らないと判断しにくいです。全体の何%が申込をしたのかが知りたいです。共働きが多くなっている現在で、それが減少している場合は原因を明確にしなければなりません。

児童青少年課長：今回は、高学年児童の申請受付を開始したことから、速報値として報告をするものです。小学校の在校児童数は4月上旬に確定しますので、次回の会議で小学校の児童数に対する学童保育クラブの利用者数（入会率）を、学年ごとに報告する予定です。

(3) 2021年度 放課後子ども教室「まちとも」の実施について

馬場委員：まちともについて（要望）教育委員会との連携はもちろんですが、学童保育との連携もよろしくお願いします。運営者協議会（学校・まちとも・学童）の会議を定期的に（月1回程度）実施し、子どもに関すること、運営に関することの意見交

換や情報共有などを密に行えると良いと思います。

児童青少年課長：会議は各協議会の判断で適宜実施していますが、まちともを実施するうえで学童との連携は重要な要素となりますので、引き続き、各運営協議会に学校・学童との意見交換や情報共有を定期的または日常的に実施するよう伝えて参ります。

吉永会長：とても大切なことなので、ぜひよろしくをお願いします。

(4) ユニセフ子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）の取組状況について

金井委員：【市内小学校個別事案について記載あり】こどもにやさしい街づくりの中に学校教育と地域の共同のシステムを早急に計画的に組み込んでいただきたいです。

児童青少年課長：子ども・子育て会議は公開を原則としている会議です。つきましては、個別の事案については、回答を差し控えさせていただきます。

吉永会長：ご意見の趣旨は個別事案の公開のことではなく、CFCの学校での取り組みについての一般的な例の提示や市内でのより一層の推進のご指摘ではないかと考えたのですが、いかがでしょうか。それでしたら、実際には、進めようとしているので、チェックのサイクルに沿って漸次公開していく、ということでもよろしいかと思えます。

鶴田委員：「子どもにやさしいチェックリスト」のとりくみ、先進的でとてもいいと思いました。

高倉委員：とても興味深く感じました。なぜ町田市が参加しているのか（子どもの居場所づくりが盛ん）など、まちテレの映像が分かりやすかったので、市民のみなさんにも積極的に紹介して欲しいと思いました。

吉永会長：この取り組みは行政だけではなく、市民参加で実施していくものですので、委員のみなさまも周囲に伝えたり、進行を注視し、ご意見を会議を通して伝えていくことが重要です。

(5) 相模原市との病児保育事業に係る広域利用協定締結について

吉田委員：病児保育事業に係る広域利用協定では、全国初との内容もあり、学校現場においても町田市の取り組みを紹介していきたいです。

(7) 「保育料及び育成料のあり方検討」について

矢口委員：私は早急に検討すべきだと考えます。

・新型コロナウイルス感染症の影響がある今こそ、子育て世帯の負担を見直すべき

では。

- ・待機児が減少し、保育施設の定員充足率が下がっている。
- ・保育料が変更されなければ、一般型定期預かり保育の利用料も変わらない。
- ・東京都が行政の独自事業向けの2021年度補助を決めたと思いましたが、それに間に合わなくなってしまう。

子ども総務課長：市民生活に大きく影響する内容になりますので、丁寧に背景や社会情勢を検討する必要があります。つきましては、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み検討をいたします。

(8) 2021年度町田市子ども・子育て会議年間スケジュール

岸委員：今後もコロナは続くと考えられるため、こうした意見シートと共にオンラインでの会議開催の併用もご検討いただきたいです。説明があることで、より求められているコメントが理解できると実感しています。今回この意見シートでも「～について」意見、はどのような意見を期待しているのか、何をチェックして欲しいのか、もしくは全てなのか、目的やゴールを提示して欲しいと感じました。其の場合もオンラインであれば、その場で質問することもできると考えています。

酒井委員：昨年までと同じ会議の開催方法は難しいかもしれませんが、書面だと他の委員さんの意見を聞くことが出来ないので、市役所内でのリモート会議を検討していただければと思います。(事務局と委員別々の会議室など。)

子ども総務課長：今後の状況を確認しつつ、オンライン会議も検討させていただきます。

3 おわりに

次回の会議は、2021年4月28日(水)となります。正式な通知は改めてお送りいたしますので、ご確認の程よろしく願いいたします。

2020年度 第3回 町田市子ども・子育て会議を閉会いたします。ありがとうございました。